

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和7年5月1日現在

江戸川区立臨海小学校

全国学力・学習状況調査		
A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和8年度の目標	65.0%	44.0%
令和7年度の目標	63.0%	42.0%
令和6年度の結果	61.1%	40.8%
令和5年度の結果	61.3%	41.8%

令和6年度江戸川区学力調査結果		
A・B層の割合		
学年	国語	算数
第6学年	64.1%	59.4%
第5学年	60.3%	52.4%
第4学年	55.6%	41.2%
第3学年	62.3%	53.6%



目標達成に向けた取組

	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> 若手教員による自主研修を実施する。 校内研究では、東京ベーシックドリル診断テストの結果分析を基に主題を設定し、教員の指導力向上を図る。 ベテラン教員による授業公開を実施し、授業力の向上を図る。 単元の中で次が終わるごとに学習のまとめを自分の考えで書くことで、学習の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週金曜日の補習の時間に漢字ミニテストを実施する算数の時間に週2回以上のマス計算を実施する。 東京ベーシックドリル診断テストを実施し、定着率の低い単元について個別に取り組み時間を月1回の放課後補修の時間に確保する。 	<p>低中学年 漢字、計算、音読の宿題を低学年から継続的に出すことで児童と家庭の宿題への取り組みを定着させる。</p> <p>高学年 宿題から自主学習へ移行させる。 自主学習ノートの取り組みを補油化して表彰などをする。</p>
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学習状況に合わせて個に応じたマス計算を作成する。 個別指導を実施しているベテラン教員の授業を観察することで、児童理解、授業理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字ミニテスト対策を実施することで、達成感、充実感をもたせるようにする。 個に応じたマス計算の内容を選定することで、達成感、充実感をもたせるようにする。 	<p>低中学年 定着率の低い児童に放課後の個別指導を実施する。</p> <p>高学年 自主学習計画表の作成を支援したり、優れた計画表を提示したりする。</p>
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査の意識調査の項目「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の肯定的回答の率を80%以上にする。令和6年度調査74.6%(全国78.2%) 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字ミニテストの正答率80%以上獲得の児童を全体の90%以上にする。 100マス計算(学年ごと内容)2分以内達成の児童を各学年全体の90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿題の提出率100%の児童を全体の95%以上にする。 宿題の60%以上を自主学習に切り替える。